

下：藤田邸での演奏

キーワード 歴史的建造物、協働連携、湘南

◎私たちが行ったこと

湘南各地で邸園の保全活用に取り組む NPO 等が連携し、各地で邸園等を舞台とした 32 の文化的催しを行う「湘南邸園文化祭 2008」を開催しました。

文化祭を開催するにあたって、協議会のホームページ等を通じて邸園での文化的催しの企画運営団体を公募したところ、17 の NPO 等から申請がありました。

協議会の役員でその企画提案書を審査して、全ての提案を湘南邸園文化祭の催しとして認定しました。

湘南邸園文化祭連絡協議会

ミッション

相模湾沿岸地域一帯に残る邸宅・庭園や歴史的建造物（以下「邸園等」という）を、地域の歴史・文化を育む県民共有の財産として次代へ継承することを目的に活動しています。各地の NPO 等が協働連携して、「湘南邸園文化祭」（邸園等を活用した様々な文化的催しで構成）を開催して、邸園等の保全活用の推進に貢献することを目指しています。

設立年月 2006年9月

メンバー数 30名

代表者名 佐藤里紗

神奈川県横浜市中区弁天通3丁目48番地

県住宅供給公社弁天通三丁目

第2共同ビル2階

社団法人

かながわ住まい・まちづくり協会内

連絡先

邸園文化調査団



◎私たちが伝えたかったこと

邸園を舞台として文化的催しを行うことによって、邸園の魅力とともに新たな湘南文化の創造と発信の可能性を伝えたいと思いました。

団体設立経緯

当協議会は、「湘南邸園文化祭」を実行するために、各地のNPO等と神奈川県との協働で設立された。

目的

- ・各地の邸園等での催しが湘南地域全体としての相乗効果を大きく生み出せるよう企画調整すること
- ・企画の実施を通じて、その効果や邸園等の利活用上の課題等を検証し、利活用方策に関して議論すること
- ・湘南邸園文化祭の運営をベースに、関係市町や関係者との協働を強め、継続的な各主体の協働連携による邸園等の保全活用に資する取り組みを行うこと

◎エピソード

定員のある事前申込制の催しに予想以上に申込が殺到し、中には、急遽同じ催しを三回開催し、申込まれた方全員に楽しんでいただけたものもあります。

県が、歴史的建造物の保存を担う専門家育成のために「ヘリテージマネージャー」制度の創設を進めています。将来的にはそのようなスキルを持った人たちが、地域的な支援ネットワークを構築していくことが望まれます。

私たちが大切にしていること

湘南文化を育んできた邸園等は、近年、相続時の保全の難しさや維持管理のための費用負担の大きさなどから、次々に失われつつあります。少しでも多くの貴重な建物等の存在を確認し、所有者との良好な関係を築きながら多くの人に関心をもってもらうことが、遠回りではありますが重要なことだと考えています。

芸術活動を行う様々なアーティストの方々と知り合うことができ、ネットワークが広がりました。

邸園所有者の声

音楽と建物のイメージがマッチしていました。素晴らしい企画かと思えます。

「華麗なるフランス・バロックの響」参加者の声

◎私たちの“これから”

神奈川県からの強力な支援がなくても、自立的に運営することができたことは、参加したNPO等の皆さんの自信につながっていると思います。資金面での課題は山積みですが、引き続き資金調達の方法を模索していきます。

外から眺めていた邸宅を見学させていただき感激です。鎌倉の文化、歴史、文学、音楽、すべての要素のつまったイベントで、二人の演奏家の競演にすっかり魅せられました。

「旧里見邸講演とチェロコンサート」参加者の声

相模湾沿岸地域

明治期から別荘・保養地を形成して、首都圏で活躍する政財界人・文化人らが滞在・交流する地域として発展し、様々な文化を発信・蓄積してきた。この地域に別荘地が形成された理由の一つに、明治4年の岩倉使節団によるロンドン近郊の海沿いの町ブライトン訪問があげられる。ロンドンとその南に位置するブライトンとの位置関係は、東京と湘南の別荘地との位置関係に非常に良く似ている。ブライトンで海水浴が開始され、イギリス王室の離宮建設とともに政財界人の保養地・別荘地として発展したことが、湘南形成の一つのモデルになったとも言える。実際、岩倉使節団参加者の多くが、湘南に別荘を建設している。地域には明治から昭和初期にかけての邸宅（洋館350棟、近代和風建築1300棟）が現存している。

湘南邸園文化祭 2008 主催 NPO と邸園住宅地分布図

邸園住宅地



開催スケジュールと内容

小田原 11月8日(土)～9日(日) 11月8日(土)～9日(日) 11月9日(日)	松永記念館 他 大倉喜八郎別邸 他 板橋→漁港→小田原宿	板橋 秋の交流会 文化財建造物 秋の観覧会 政財界の邸園巡りと邸主が愛したグルメツアー
二宮 11月15日(土)	吾妻山とその周辺	walk walk (ワクワク) 地域探検ツアー
大磯 11月29日(土)～12月7日(日) 11月30日(日) 12月7日(日)	県立大磯城山公園 県立大磯城山公園茶室「城山庵」 県立大磯城山公園茶室「城山庵」	もみじのライトアップ 箏曲演奏会 雅楽演奏会
平塚 10月12日(日) 10月12日(日) 10月12日(日) 10月19日(日) 10月19日(日)	藤田邸 藤田邸他 藤田邸 崇善公民館 崇善公民館	湘南ひらつか邸宅ものがたり「藤田邸庭園ライトアップ」 湘南ひらつか邸宅ものがたり「三洋館・邸宅見学会」 湘南ひらつか邸宅ものがたり「平塚ミュージックカフェ」 奥平哲也マリンバコンサート 崇善公民館のライトアップと歴史写真展
茅ヶ崎 9月7日(日) 9月7日(日)～14日(日) 11月3日(祝)	茅ヶ崎館 市立図書館 旧南湖院 他 茅ヶ崎館	南佳孝 邸園ライブ文化の夕べ「キックオフイベント」 ちがさき文化景観祭'08【同時開催】 茅ヶ崎館で観る徳富蘆花 原作「不如帰」映画上映会
藤沢 9月13日(土)～23日(火) 10月19日(日) 11月8日(土) 11月8日(土)～9日(日) 11月9日(日) 11月29日(土)	蔵まえギャラリー 藤沢市民会館 グリーンハウス 旧近藤邸 旧近藤邸 旧近藤邸→グリーンハウス他	昭和の藤沢写真展 よみがえれ!旧モーガン邸写真展と講演会 グリーンハウス物語第5話 秋の講演会とコンサート 藤沢アートワーク 旧近藤邸 暖炉を囲む会 グリーンハウス物語第6話 歴史散歩ツアー
鎌倉 10月4日(土)～5日(日) 10月19日(日) 10月25日(土) 11月3日(祝)	旧里見亭邸 旧里見亭邸 鎌倉駅→村上邸他 旧里見亭邸	吉川久子フルーツ音色スクエア in 旧里見亭邸 旧里見亭邸・西御門サローネ 講演とチェロコンサート 秋の鎌倉 名邸園めぐり いにしえのモダニズムを楽しむ 琴・ピアノコンサート
逗子 10月5日(日) 10月19日(日) 11月22日(土)	逗子市郷土資料館 旧脇村邸 黒門カルチャーくらぶ 長島孝一邸	桜山の邸園を散策し、日本の叙情歌に親しむ 海辺の別荘「黒門」でバロック音楽を愉しむ 文化財住宅で「平家物語」を聴く
葉山 9月28日(日) 10月12日(日) 11月3日(祝) 11月3日(祝)	旧中西進別荘 森山神社境内「一色会館」 旧東伏見宮別邸他 旧別荘 旧東伏見宮別邸	「葉山・そこにあるもの」カメラを持ってフィールドワーク 「葉山・そこにあるもの」作品を見ながらトークセッション 葉山別荘ツアー (旧東伏見宮別邸サロンコンサート鑑賞付き) 旧東伏見宮別邸サロンコンサート ファン・エイグ『笛の楽園』の愉しみ

左上：長島邸で「平家物語」を聴く
 左下：旧宮城道雄別荘見学会
 右上：茅ヶ崎館で観る映画「不如帰」
 右下：鎌倉のK邸



◎私たち自身で活動を評価

運営体制

今年度は、協議会が神奈川県の手から離れて、自立的に運営する最初の年でしたが、無事開催することができました。

事務局の作業負担が大きいため、今後は協議会内で作業を分担して行う体制に移行していきたいと考えます。

資金調達

H&C 財団からの支援に加えて、社団法人企業メセナ協議会の助成認定を受けることができたので、地元企業からの寄付を得ることができました。

行政が所有する邸園で、入場料を集められない会場や収容人数の小さい会場などの採算を取る事が難しい会場で催しを行う場合は、協賛金を募るなどの工夫が必要だと感じました。

広報

プロモーション部会を組織内に立ち上げ、戦略的にプロモーションに取り組みました。プロモーション部会は、神奈川新聞やテレビ神奈川等の地域密着マスメディアとの連携体制の強化に努めました。各主催団体は、タウン誌、市町の広報誌など、ローカルメディアへの情報発信に努めました。

その結果、神奈川新聞やテレビ神奈川で、イベントの紹介だけでなく、活動のベースとなっている「邸園文化圏再生構想」のPRまで行うことができました。

邸園の魅力の発信

今年で3回目の開催でしたが、年々参加者は増加しました（平成18年度 8,772人→平成19年度 14,962人→平成20年度 24,758人）。毎年7割の方が、初めて湘南邸園文化祭に参加していただいたことがわかり、新たな方々に、邸園の魅力を発信することができたのではないかと考えます。

邸園文化圏再生構想

神奈川県は、貴重な資産である「邸園」を活用し、文化の発信と交流を推進する「邸園文化圏再生構想」に取り組んでいる。内外からの来訪者と地域住民による多彩な交流を図るため、県民・行政・企業協働で取り組みを進めており、構想推進のため以下のモデルプロジェクトを実施している。

- ・大磯近代歴史文化公園ゾーンの形成着手
- ・地域交流館の実験的運営
- ・邸園文化交流推進協議会の組織化

湘南邸園文化祭は、モデルプロジェクトの1つとして、県の財政的な協力を受けて平成18年度と19年度に開催された。年々参加人数や主催団体数が増えてきたことから、県の財政支援がなくなった後も自立運営で継続的な開催を目指している。

度重なる歴史的建造物の焼失について関係者全員がショックを受けたことは言うまでもありません。これまでは地域の人などに邸園の存在を知らせて、価値を認識してもらうことで保存活用への機運を高めることが重要だと考えてきました。近年の事件は、いずれも保存の方向性が決まり、活用方策等について具体化しようという最中に起きているので、ジレンマに陥ってしまいます。しかし、活動が消極的になればこれまでの活動が活かされませんし、何も手を打たなければ文化財テロとも言えるこうした悪意に届してしまうことにもなります。文化財の防災面も積極的に考えていかなければならない段階に来たのだと思います。